The Japanese Geotechnical Society

地盤工学会創立50周年を迎えて

木村　孟（きむら　つとむ）
㈳地盤工学会会長，学位授与機構機構長

我々の誇る地盤工学会は本年，目出度く創立50周年を迎えました。当学会は，戦後間もなくの1949年，国際土質基礎工学会の日本支部に相当する「日本土質基礎工学委員会」として発足しました。地盤工学会は，国際的コミュニケーションの非常に良い学会として知られておりますが，これはひとえにこの発足の経緯によるものであります。当時の会員数はわずか122名でありましたが，50年を経た今日，その約110倍の13 000名を超えるに至り，我が国でも8番目に大きな学会に成長しました。これも，会員の皆様の絶えざるご努力の賜物であり，今期会長を仰せつかっている私としても，大いに喜びとするところであります。

地盤工学会は，土木，建築，地質，農業工学等の複数の領域を横断する専門学会であります。学会発足後5年を経た1954年，学会誌「土と基礎」を創刊しましたが，その翌年に学会の名称が「土質工学会」に改められました。また，1960年には，英文論文集 “Soils and Foundations” を創刊しております。「土質工学会」という名称は学会員から非常に親しまれておりましたが，10年ほど前から，我々のかかわる学問，技術が，地盤環境，地盤防災，大深度地下利用等の新しい，いわば大都市の環境問題についての関与を求められるようになり，これに伴い学会活動の範囲を急速に拡大せざるを得ない事態となりました。この頃から，学会の名称についての新しい議論が巻き起こり，鋭意検討の結果，新しい時代の我々の幅広い活動を表現し得る名称として「地盤工学会」が採用され，1995年，正式に名称変更が行われました。学会名称の問題は，国際土質工学会（ISSMFE）においても，同様の背景から変更についての提案がなされ，1997年ハンブルグの第14回国際土質基礎工学会議に先立って行われた代表者会議において，International Society for Soil Mechanics and Geotechnical Engineering（ISSMGE）とすることが決まりました。当時，国際学会の理事の一人として，学会の名称変更の議論に加わりましたが，我が国の学会がいち早く名称を変更したことが，その議論を加速したと確信しております。このことは，我が学会が，絶えず国際的視野に立って学会活動を進めている事実を示すものであり，大いに誇りにすべきことであろうと思っています。

我々の学会，さらには国際学会の名称変更の流れに見られるように，土単体を対象としてテルツァーギによって体系付けられた土質力学は，少し誇張して言えば，今や，地球外殻部を形成する鉱物にかかわるすべての現象を取扱う学問に，拡張されつつあると言うことが出来るように思われます。また，石原研而前学会長が指摘されているように，変形理論については，基本的概念の深化が発展的に生き残れる唯一の分野が我々の学問ではないかと考えられます。

ここ数年，インフラストラクチャー整備の見直しによって，我が国における地盤工学会会員の技術的シェアが減少しつつある点が憂慮されていますが，我が国の奇跡とも言われる経済発展を可能にしたのは，まさしく我々が整備してきた高度なインフラストラクチャーであります。また，最近アメリカやヨーロッパの国々がダイナミズムを取り戻したのも，インフラストラクチャー整備によるところが大きいというのが欧米の識者の大方の見方であります。我が国の社会システムとしてのインフラストラクチャー整備の進め方については，再考すべき点が多々ありますが，技術の観点からは消極的になるべきではないと思います。地盤環境，大深度地下，大地震対策等，我々の関与を必要とする技術活動の範囲はますます広がりつつあります。国際的に見ても，我が国の地盤工学技術に対する期待は高まる一方です。

財政多難な折りにもかかわらず，会員の皆様の並々ならぬご努力により，地盤工学会の活動は，新しい時代に焦点を合わせて，幅広く展開されようとしております。地盤工学会のさらなる発展に向けて，会員諸氏の一層のご支援とご理解を，お願い申し上げる次第であります。

（原稿受理　1999.6.16）

NII-Electronic Library Service